

## 第5章 都市づくりの現状と課題（地域別）

当市は、土地利用の状況や地域の歴史・文化、産業、自然環境などの面から大きく6地域に分けることができます。

このうち、「岡山・萱野地区」、「三笠地区」、「幌内地区」、「唐松・清住地区」、「弥生・幾春別地区」の5地域は都市計画区域内にありますが、「奔別・桂沢地区」は都市計画区域外となっています。

ここでは、前項の都市づくりの現状と課題（部門別）を基に、地域独自の課題・テーマに取り組むものとしします。

なお、都市計画区域外である「奔別・桂沢地区」についても、区域内と親密な関係にあることから、合わせて取り組むこととしします。

### 1 岡山・萱野地区

#### （1）沿革

岡山・萱野地区は、三笠市の西の玄関口に位置し、平坦に拓けた土地を活用し、古くから岡山、萱野及び大里も含めそれぞれ風土に見合った農業が盛んな地域です。また、昭和43年の地域振興整備公団による三笠工業団地の造成以来、製造業を中心とした企業立地が進み市内の工業集積地として発展してきました。

近年では、国道12号沿道に大型商業施設（イオンスーパーセンター三笠店）の進出や温浴施設、宿泊施設、パークゴルフ場等「道の駅」周辺の再開発により、新たな交流拠点としての役割を担っています。

#### （2）現状と課題

##### ア 住居系の土地利用

平成3年に3・3・1岩見沢三笠通（道道岩見沢三笠線）と道道三笠栗山線の交差点南側に民間による136戸の戸建用住宅地が開発され、良好な住環境が形成されています。

また、平成17年には、大型商業施設（イオンスーパーセンター三笠店）の隣接地南側に、利便性の高い住宅地として、31戸の戸建用住宅地と5戸の集合住宅地が開発され、戸建用住宅地は完売しており、新たな人口定着が図られています。

##### ○三笠工業団地内住宅整備

「キャンパスステージみかさ」南側隣接地の工業地域において戸別住宅と集合住宅（高齢者対応）等の整備による新たな定住人口増加を図ります。

##### ○岡山萱野地区住宅整備

岡山萱野小中一貫教育の展開と合わせ、既存住宅団地から旧萱野駅周辺地域を特徴のある住宅地として整備し、市外からの移住者を含め定住化の促進を目指します。

##### ◎狭小な敷地の住宅団地の雪処理問題の解消

##### イ 工業系の土地利用

昭和43年の地域振興整備公団による三笠工業団地造成以来、製造業を中心とした企業立地

が進み市内の工業集積地として発展してきましたが、昨今の社会経済状況の低迷から分譲不振や、既存企業の撤退などの問題が生じています。また、平成20年度より工業団地の一部を無償リース団地とし、新たな企業誘致の促進に向けた取組みを強化しています。

平成14年、三笠工業団地内の一部について、工業系のほか、商業系なども加え幅広い土地利用が可能となるよう用途地域の見直しを行い、大型商業施設の誘致や住宅開発などの展開がなされました。

#### ◎工業系用途の細分化の検討

○国道12号沿道（ペプシ跡地周辺）の今後の展開について検討

※工業系土地利用の需要等を把握した上で土地利用の細分化等を検討

#### ウ 農業系の土地利用

用途地域外（白地地域）の大部分は、農業振興地域内農用地区域に指定され、都市的な開発は抑制されており、優良な農用地が確保されています。

しかし、農業経営者の高齢化や後継者不足という問題を抱えており、担い手の確保が必要です。

近年では、一部に耕作放棄地が見受けられることから農地の流動化が求められています。

#### エ 交通施設

- ・道央自動車道三笠インターチェンジは、広域交通の拠点としての役割を担っています。
- ・交流人口の増加を図るために、高速バス停留所の早期設置を関係機関に対し要望しています。
- ・主要道道三笠栗山線は、大型商業施設の進出や道の駅周辺の再開発による集客施設の影響で一般国道12号との交差点を中心に渋滞が発生しており、早期改良が望まれています。
- ・3・3・1 岩見沢三笠通(主要道道岩見沢三笠線)は、幅員30m（片側2車線）の幹線道路として近年の交通量増大に対応しています。

(都市計画道路)

3・3・1 岩見沢三笠通 . . . 整備済

3・4・9 工業団地通 . . . 整備済

#### オ 公園緑地

(都市計画公園) . . . なし

(都市公園)

岡山中央西公園 . . . 整備済

岡山中央東公園 . . . 整備済

萱野花の道公園 . . . 整備済

○岡山運動公園：計画的な維持管理が課題となっている。

○岡山第2運動公園：緑地的な整備がなされているが、岡山工業団地内の大雨時の調整池としての役割を担っています。

#### カ 公共下水道

公共下水道は整備済みであり、水洗化率の向上をめざします。

※水洗化率は、平成31年3月末で89.6%となっています。

また、公共下水道区域外(白地地域)は、合併浄化槽による普及促進を実施しています。

#### キ その他

- ・優れた自然景観として、岡山の丘陵地、国営開発パイロット事業によって整備された農地などがあります。
- ・達布地区で個人農業者によるワイン用ブドウの栽培が拡大され質の良いワインの提供が行われています。
- ・道の駅周辺の再開発の一環で民間によりホテルが建設され、観光交流人口の増加につながっています。

## 2 三笠地区

### (1) 沿革

三笠地区は、明治中期に現在の本郷・いちきしり地区に設置された空知集治監を中心に発展し、農業を主要な産業としてきました。

昭和25年からは都市計画事業として土地区画整理事業に着手し、現在の市街地の原型が出来上がり、その後、公営住宅建設事業や都市計画法に基づく開発行為、都市計画道路の整備などに着手し、現在までの三笠市の中心市街地を形成しています。

### (2) 現状と課題

#### ア 住居系の土地利用

住居系土地利用については、商業地域を取り巻くように設定されていますが、近年、人口の減少から住宅除却後の未利用宅地が見受けられます。また、柏町の民間開発による住宅地は分譲が進められていますが、未分譲の箇所も見受けられます。

一方、公的住宅では「三笠市公営住宅ストック総合活用計画」に基づき、老朽化した公営住宅の除却とともに除雪の心配をしなくてもよい中低層(1~4階建)を中心とした公営住宅の建替えが進められています。

#### イ 商業系の土地利用

市役所や金融機関、事務所などはこの地区に集積しており、市の中心地として重要な位置を占めていますが、人口の減少に伴う過疎化や、商店経営者の高齢化、後継者不足によって衰退が続いており、中心市街地としての活気やにぎわいを創出することが必要です。

#### ◎商業地域、準防火地域の縮小の検討

過疎化や商業環境の変化により、その機能が失われていることから、一部を周辺地域に配慮した住居系とすることを検討するとともに、商業地域を縮小する場合には、市街地において延焼のおそれがないかなどについて確認の上、準防火地域の変更について見直しを行います。

※商業地域の一部 → 住居系用途

#### ウ 工業系の土地利用

主に3・3・1岩見沢三笠通(主要道道岩見沢三笠線)沿道に準工業地域を指定しています。

#### エ 交通施設

都市計画道路については、概ね整備が完了しているが、「3・4・3本郷美園町通」、「3・5・

7 榊堤町通」の2路線の一部は、周辺の市街化が進まなかったことなどから未整備の状況となっています。

(都市計画道路)

3・3・1 岩見沢三笠通 . . . 整備中

(主要道道岩見沢三笠線)

3・4・3 本郷美園町通 . . . 一部未整備

3・4・4 有明通 . . . 整備済

3・5・5 さくら通 . . . 整備済

3・5・6 若草本郷町通 . . . 整備済

3・5・7 榊堤町通 . . . 一部未整備

3・5・8 かえで通 . . . 整備済

## オ 公園、緑地

街区公園、近隣公園、運動公園、都市計画緑地、都市計画墓園が都市計画決定されています。特に、都市計画緑地（三笠グリーンパーク）の整備率が12.2%と低く、今後の展開について、検討が必要です。

(都市計画公園)

2・2・5 榊町児童公園 . . . 整備済

2・2・9 若松町児童公園 . . . 整備済

2・2・10 有明町児童公園 . . . 整備済

2・2・13 宮本町児童公園 . . . 整備済

2・2・14 柏町児童公園 . . . 整備済

2・2・17 美園町下団地児童公園 . . . 整備済

2・2・18 本郷町児童公園 . . . 整備済

2・2・20 見晴公園 . . . 整備済

3・3・1 堤公園 . . . 整備済

6・5・1 三笠運動公園 . . . 整備済

(都市計画緑地)

三笠グリーンパーク . . . 整備率12.2%

(都市計画墓園)

清住霊園 . . . 整備率41.5%

(都市公園)

柏台中央公園 . . . 整備済

美園緑地公園 . . . 整備済

中央公園 . . . 整備済

本町児童公園 . . . 整備済

## カ 公共下水道

公共下水道処理区域（用途地域内）は、整備済みであり、水洗化率100%をめざします。

※水洗化率は、平成31年3月末で94.2%となっています。

また、公共下水道処理区域外（白地地域）は、合併浄化槽による普及促進を実施しています。

### 3 幌内地区

#### (1) 沿革

幌内地区は、明治元年の石炭の発見から、炭鉱開発に着手するとともに、石炭輸送のために全国で3番目、北海道では最初となる鉄道「幌内鉄道（幌内～手宮間）」の開通などにより、北海道開拓期の石炭エネルギー供給地域として発展を続けてきましたが、国のエネルギー政策の転換から、平成元年に最後の炭鉱である北炭幌内炭鉱が閉山し、全ての炭鉱が姿を消しました。

#### (2) 現況と課題

##### ア 住居系の土地利用

幌内地区は、住居系に限った用途指定がされており、そのほとんどは旧炭鉱地区改良住宅団地群を中心とした閑静な住環境が確保されています。

しかし、過疎化の進行により未利用地が発生しています。特に、本沢地区などは、すでに無人地域となっています。

◎このことからまとまりのある市街地形成による効率的な都市経営のため、土地利用のあり方や適正な規模等を検討し、用途地域の見直しを行います。

##### イ 交通施設

都市計画道路3・4・2三笠幌内通(一般道道三笠栗沢線)は、未整備部分が残っています。(整備率70.2%)

(都市計画道路)

3・4・2三笠幌内通 . . . 一部未整備

(一般道道三笠栗沢線)

##### ウ 公園緑地

旧炭鉱住宅跡地にある街区公園(児童公園)は、地域人口の減少等により、利用度が低くなっています。

◎全市的な見地から、公園の適正配置について見直しを行います。

##### ○新栄公園

(都市計画公園)

2・2・4 幌内住吉町児童公園 . . . 整備済

2・2・16 新栄公園 . . . 整備済

3・3・2 幌内公園 . . . 未整備

(都市公園)

初音公園 . . . 整備済

金谷児童公園 . . . 整備済

いこい児童公園 . . . 整備済

幌内もみじ公園 . . . 整備済

##### エ その他

- ・幌内本沢地区には、変電所や選炭機跡など当時の炭鉱施設群が残っており、これらを活用した市民活動が活発です。（みかさ炭鉱の記憶再生塾による幌内景観公園）
- ・鉄道村については、トロッコ鉄道が開設されたことにより、来館者が増加し活気とにぎわいが創出されています。
- ・ミカサモダンアートミュージアムは、今後、どのように地域の活性化に結びつけていくかが求められています。

#### オ 公共下水道

公共下水道処理区域（用途地域内）は、整備済みであり、水洗化率100%を目指します。  
 ※水洗化率は、平成31年3月末で83.5%となっています。  
 また、公共下水道処理区域外（白地地域）は、合併浄化槽による普及促進を実施しています。

## 4 唐松・清住地区

### （1）沿革

唐松・清住地区は、中心市街地である三笠地区と幾春別・弥生地区の中間に位置し、平成元年に「北炭幌内炭鉱」が閉山するまで主に炭鉱と農業を中心に発展してきました。  
 炭鉱閉山後は、その跡地に軽工業を中心とした企業が立地しています。

### （2）現況と課題

#### ア 住居系の土地利用

唐松高台地区の3階建て改良住宅団地群を中心にゆとりある住環境が確保されていますが、唐松栄町1丁目に老朽した改良住宅が残っています。

炭鉱閉山後、除却された栄町2丁目の旧炭鉱住宅跡地は、未利用のままの状態が現在も続いています。

清住地区の旧炭住跡地には、老人福祉施設が設置されています。

#### イ 商業系の土地利用

商業地域として、唐松中心部の一般道道岩見沢桂沢線沿道に形成されていますが、過疎化が進み、衰退が続いています。

#### ◎商業地域、準防火地域の縮小の検討

過疎化や商業環境の変化により、その機能が失われていることから、一部を周辺地域に配慮した住居系とすることを検討するとともに、商業地域を縮小する場合には、市街地において延焼のおそれがないかなどについて確認の上、準防火地域の変更について見直しを行います。

※商業地域の一部 → 住居系用途

#### ウ 工業系の土地利用

青山町の旧炭鉱跡地を中心に企業立地されていますが、東部の唐松春光町地区の工業地域は大部分が未利用地となっています。

#### エ 農業系の土地利用

農地については、農業振興地域農用地区域に指定されています。青山町では農業経営者の高齢化や後継者の不足から耕作放棄地も一部に見られます。

## オ 交通施設

地域内の3・3・1岩見沢三笠通（主要道道岩見沢三笠線）と一般道道岩見沢桂沢線の両路線は、一般道道美唄富良野線の開通によって富良野方面の交通量の増大が続いています。

## カ 公園緑地

旧炭鉱住宅跡地にある街区公園(児童公園)は、地域人口の減少等により、利用度が低くなっています。

◎全市的な見地から、公園の適正配置について検討。

- ・唐松栄町児童公園
- ・唐松春光町児童公園
- ・唐松町第1児童公園
- ・唐松町第2児童公園

(都市計画公園)

- |                  |     |     |
|------------------|-----|-----|
| 2・2・2 唐松栄町児童公園   | ・・・ | 整備済 |
| 2・2・3 唐松常盤町児童公園  | ・・・ | 整備済 |
| 2・2・12 清住町児童公園   | ・・・ | 整備中 |
| 2・2・15 唐松春光町児童公園 | ・・・ | 整備済 |

(都市公園)

- |          |     |     |
|----------|-----|-----|
| 唐松河川緑地公園 | ・・・ | 整備済 |
| 唐松運動公園   | ・・・ | 整備済 |
| 千代田児童公園  | ・・・ | 整備済 |

## キ その他の処理施設

青山地区に設置されているプラスチックリサイクル施設（一般廃棄物処理施設）は、平成10年に都市計画決定され、平成12年から稼働した油化センター施設を引き継ぎ、平成16年より民間により運営されています。

また、都市計画決定とは別の一般廃棄物処理施設として、唐松緑町に「みどりが丘環境センター」、春光町にはバイオマスタウン構想による食品残渣(生ごみ)処理施設「F Aリサイクルセンター」が稼働しています。

## ク 公共下水道

公共下水道処理区域（用途地域内）は、整備済みであり、水洗化率100%を目指します。

※水洗化率は、平成31年3月末で78.2%となっています。

また、公共下水道処理区域外（白地地域）は、合併浄化槽による普及促進を実施しています

## ケ その他

唐松青山町の旧北炭幌内炭鉱立坑やぐらは、かつての炭鉱まち「みかさ」の象徴であり、現在も地域のシンボルとしてその威容を誇っております。

## 5 弥生・幾春別地区

### (1) 沿革

弥生・幾春別地区は、三笠市の東の玄関口に位置し、幌内地区や唐松地区と同様、炭鉱によって発展してきた地区です。

炭鉱全盛時代は、奔別地区まで炭鉱住宅が建ち並び、市街地全体が活気とにぎわいに満ちていま

したが、昭和46年の「住友奔別炭鉱」の閉山を最後に炭鉱は地域から姿を消し、現在も地域の過疎化が進んでいます。

## (2) 現況と課題

### ア 住居系の土地利用

古くから拓けた地区であり、落ち着いた静かな住環境に恵まれています。過疎化から低未利用地が点在しています。

### イ 商業系の土地利用

近隣商業地域的な性格を有し、地域に密着した商店や事務所が立地していましたが、過疎化の進行や通過交通の流れの変化などによる商業環境の衰退により、その機能が失われています。

#### ◎商業地域、準防火地域の見直しの検討

一部を周辺地域に配慮した住居系とすることを検討するとともに、商業地域を縮小する場合には、市街地において延焼のおそれがないかなどについて確認の上、準防火地域の変更について見直しを行います。

### ウ 工業系の土地利用

一部の炭鉱跡地には企業が貼り付き、また、背後地の豊富な森林資源を活かした木材会社などが立地している一方、未利用地も見受けられます。

### エ 交通施設

3・3・1 岩見沢三笠通（主要道道岩見沢三笠線）は、交通量の増加に対応する整備が進められています。3・4・10 幾春別中央通は、道道の一部が市道として移管され、街路としての整備はされていませんが、市道としての機能は維持されています。

### オ 公園緑地

#### （都市計画公園）

2・2・11 弥生花園町児童公園	・・・	整備済
2・2・19 並木公園	・・・	整備済
2・2・1 幾春別中島児童公園	・・・	整備済
2・2・6 幾春別川向町児童公園	・・・	整備済

#### （都市公園）

弥生市民広場	・・・	整備済
開拓記念広場	・・・	整備済

### カ 公共下水道

公共下水道処理区域（用途地域内）は、整備済みであり、水洗化率100%をめざします。

※水洗化率は、平成31年3月末で36.1%となっています。

また、公共下水道処理区域外（白地地域）は、合併浄化槽による普及促進を実施しています。

### キ その他

・三笠あすか梅の杜は、幾春別栗丘町の丘陵地約10haを利用して造成された梅園で、約1万本の梅が植樹されています。

・旧住友奔別炭鉱の立坑やぐらは、現在もその威容を誇り、地域のランドマークとして残って



います。

## 6 奔別・桂沢地区（都市計画区域外）

### （1）沿革

全市の約 55%の面積を占める奔別・桂沢地区は、ほとんどが国有林です。昭和 32 年に完成した桂沢ダムによって誕生した「桂沢湖」周辺は北海道立富良野芦別自然公園に指定され、良好な自然景観が保たれています。

### （2）現況と課題

- ・国の幾春別川総合開発事業により、桂沢ダムを嵩上げし「新桂沢ダム」に生まれ変わる予定です。また、奔別川に「三笠ぼんべつダム」が新設される予定です。
- ・富良野方面の交通量の増加と幾春別川総合開発事業の進捗に対応する主要道道岩見沢三笠線の改良工事が進められています。

